

「性的マイノリティ」について学びました

「少数者」。「多数者」でいるときに、「少数者」の人が困っていることになかなか気づきません。でも、何かしら自分が「少数者」の部分はあると思います。「多数者」でいるときに、困っている人へ、思いをはせてみませんか？

～生徒の感想より～

世の中にはいろんな人がいて、でもそれを理解する人が少ない。いろんな人がいることが当たり前のこととして知識が広がればいいと思います。

多様な性を持っている人は3%～5%いて、思っていたよりもたくさんいるなと驚きました。自殺する人も多くて心が痛くなりました。多様な性を持っている人は、まだ自分を出し切れていないだけで身近な人でもいるのかなと思いました。一人ひとりと大切に接していきたいと思います。

LGBTQの人で自分はダメ人間だと思っている人がいて、それを誰にも言えずにずっと苦しんで自殺してしまうこともあると知って驚いた。そんな人を減らすためにもこの授業を全体でもっとしてほしいし、理解が社会全体に広まってほしい。

自分からみたら普通に過ごしていると感じるけど、本当は苦しんでいたたり、悩んでいたたりしていることがあったり、実際に相談しようと思っても相手の反応などを疑ったりすることでなかなか相談できないんだなと思いました。

世の中にはいろんな人がいると思ったし、悪いことではないと思いました。その人たちの気持ちになりなさいと言われてもわからないと思うし、難しいと思うけど、そういうことで差別するのはよくないし、差別しないためにこういう教育の時間が大切だなと思いました。

同性の人を好きになる人が少数だとしても、否定せず、苦しんでいる人がいなくなって、普通に考えられる世界になったらいいなと思いました。

少数だからといって自分をだまして辛い想いをしている人がたくさんいるのを知っておどろきました。でも、そういう風になってしまった社会を作ったのは私達なんだということがよくわかった。マイノリティの人たちが生活しやすい社会を作らないといけないと強く思いました。そして、正しく理解しないと、知らないうちに相手を傷つけてしまうかもしれないのだと思いました。今でも、自分をだまして生活をしている人がたくさんいるのを知って、それを強制的に話させようとするのも相手を傷つける可能性があることも知れてよかったです。